令和６年度富山県立大学入学式式辞

令和６年４月４日（木）
アルビス小杉総合体育センター

本日、ここに迎えた７４５名の新入生の皆さん、また、ご家族の皆様、入学試験に合格し、今日の日を迎えられたことに、心より敬意を表します。

中でも、ご自身、ご家族が被災しつつも、大学に入学された皆さん、その気概に改めて敬意を表します。

また、本日は、新田富山県知事、山本富山県議会議長をはじめ多くのご来賓の皆様をお迎えし、令和６年度富山県立大学の入学式を挙行いたしました。教職員を代表し、関係の皆様方に、心より御礼を申し上げます。

皆さんは今日から大学生です。大学生になったらこんなことをしたいと、自らに期待をしてこの入学式に出席していることと思います。皆さんと同様に、私も皆さんに期待をしています。今日は、アントレプレナーシップという言葉を用いて、私の期待をお話しいたします。

私は、皆さんが、富山県立大学在学中にアントレプレナーシップを身につけることを期待しています。アントレプレナーシップとは起業家精神と訳されますが、スタートアップベンチャ企業をつくるための能力に限定されません。起業家精神とは、企業や医療機関や役所で新しいサービスや製品を創出するとき、また、大学で独創的な研究を始めるときなどに必要な、型にはまらない自由な課題解決能力だと私は考えています。未解決の課題に取り組み、リスクを知りながらも先頭に立って解決する能力ということもできます。現在私たちが抱えている２つの大きな社会課題、つまり、少子高齢社会という課題、持続可能社会という課題、の中には多数の未解決課題があります。少子高齢社会という言葉を文字通りに読むと、生まれる子の数が減少し、高齢者が増える社会です。しかし、社会が将来どのように変化していくかはこの言葉からは読み取りにくい。読み取るべきものの一つは、１８歳人口が減り、結婚しない人の割合が増え、子を持たない人の割合が増え、したがって、世帯の構成が変わってきていることです。しかも、この推移はほとんど確定的だといわれ、結果、介護や交通手段や、家事や公共設備管理などでの課題が山積みです。人口が増えた高度成長期に作られた道路や橋が歳を取り、予算や人手不足によって老朽化が進行していますが、少子高齢社会との関係性は言われなければ気づかないかもしれません。このような社会課題を、企業や医療機関や役所や大学の立場からビジネスを通して解決する能力も起業家精神です。

みなさんが大学に入学して最終的に身につけるべきものの一つが、社会課題をビジネスを使って解決する、この起業家精神だと私は考えています。自分に言い訳して立ち止まるのではなく、リスクを承知しながら解決しようと前に進む力です。大学教員の「あ

るある」でいうと、「とにかくやってみよう。失敗するから面白いんだ。」ということになります。

高校までの学習を振り返ってみましょう。例えば、小学校の算数では加減乗除を学びました。また、１次方程式や２次方程式の解を表すために、小学校では分数、中学校で負の数や無理数、高等学校では複素数を体系的に学びました。これらを皆さんは、教科書の説明と練習問題を解くことで身につけました。無理数や複素数などは、昔、だれかが考え付いたものですが、それを、小中高校で順序よく体系だって私たちは勉強し身につけました。身についたかどうかは、試験によって評価されてきたはずです。このような教科を学ぶプロセスはディシプリン、日本語で訓練という言葉が当たります。

皆さんが所属する大学の学科も、先人の発見、発明、知恵を体系化して訓練としての教育を受ける単位になったもので、ディシプリンです。大学ではこの体系を訓練で学んだ後に、起業家精神が身につく機会が提供されます。その典型的な例が、学部の卒業研究や大学院での修士論文や博士論文の研究です。教員が皆さんの指導にあたりますが、設定される研究課題は狭く尖っていて、これまでにだれも解決していないものなので、指導教員も結果の確証はない。皆さんは、その課題を解決する過程を教員と協力して経験し、結果を手に入れますが、そこに至るまでに、実験をしてみると見込み違いだったり、計算間違いをしていたり、など紆余曲折、失敗、リスクがつきものです。卒業研究や修士論文や博士論文の研究を就職後も続けている人は珍しいのですが、研究の過程で獲得した起業家精神が就職後、役立っている人を多数見てきました。

国際性についても眺めてみましょう。明治時代、五箇条の御誓文にあるように智識を世界に求め、お雇い外国人を招いて、また、海外から帰国した日本人も教育に参加し、さらに、そこで育った日本人が教育に参加できるようになると、英語の教科書を翻訳して日本語で教育をし、またまた教育された人たちがいわゆる孫弟子さんを育て、日本語の教科書で、訓練としての教育をしてきました。少し前までは情報伝達に時間を要し、海外との人の往来も限られていたのでこのように時間のかかる方法でもよかったのだと思います。しかし、今日では「秒」で情報が世界を駆け巡ります。最新のニュースや学術情報はオンラインで世界同時に見ることができます。世界の若者が、自分自身の夢を実現し、また、収入を得るため、高等教育を受け、起業家精神を身につけ、英語でコミュニケーションして成長のフロンティアになろうとしています。特に歴史的に英語が自然に使える国々の発展は目覚ましい限りです。英語を使えば、世界から情報を集め、世界を相手に活動し、世界のどこでもビジネスができるわけですから、日本の明治時代以降のように国内の体制を整えるのに時間がかからない。跳んだ、leap したわけです。２０年ほど前から、世界のトップレベルの大学・研究機関が、シンガポールや香港や中国などの地域、国々に進出し、また米国の大学教員もその地域、国々の国立大学などで雇用され始めたのを見てきました。結果、そこでは英語という世界共通言語で最先端の研究や教育が実施されています。

起業家精神と国際性について述べてきましたが、私たちはこのような動きを、見て見

ぬふりをすることによるリスクではなく、私たちも適応していくときのリスクをとることが求められるでしょう。私はみなさんが、課題解決能力である起業家精神、つまり、アントレプレナーシップを身に着け、リスクを知りながら世界を見て成長してほしいと願っています。富山県立大学は成長の機会をみなさんに提供すると同時に、皆さんとともに適応、成長していきます。

最後になりましたが、入学する皆さんにお願いしたいことを四つ述べます。

一つ目に、広く友人をつくってください。富山県立大学にはさまざまな人が、いろいろな地域から入学しています。今、みなさんの隣に座っている人も、みなさんと同様に友人を作りたいとおもっているはずです。この入学式が終わったあと、また、クラスやサークルでも、隣の人に「こんにちは」と声をかけてみてください。授業中やゼミのときや、そのあと、教員と話をしてみてください。教員はみなさんが想像しているよりずっとフレンドリーです。大学内に友人や知り合いをつくり大学に愛着をもってもらえると、人のネットワークができて、ともに楽しんだり、悲しみを癒してくれたり、また深い穴に落ちかけた時に助けてもらうこともできます。このネットワークや大学への愛着は卒業後も続いて、友人に悩みを聞いてもらったり、友人と一緒に旅行にいったり、仕事上の課題を教員に相談することもできます。みなさんが想像するよりもずっと大学時代のネットワークは歳をとっても続くものです。私が小学生のころ、ひょっこりひょうたん島というテレビ番組がありました。小学生が先生と遠足に行ったひょうたん島が火山の噴火で本土と切り離されて漂流していくなかでの出来事を扱った人形劇ですが、その主題歌の歌詞「苦しいこともあるだろさ、悲しいこともあるだろさ、だけど僕らはくじけない、泣くのは嫌だ笑っちゃおう」のネットワークを作ってみてください。

二つ目に、国際性を身につけてください。富山県立大学は、国外での語学研修の機会を提供し、また、国外の大学と交流協定を結んで皆さんが研究などで交流できるように努めています。さらに、今年度令和６年度には米国シリコンバレーに富山県立大学のオフィスをつくり、皆さんが利用できるように整えます。ご家族の皆様も、入学式に臨んでいる学生が国際性を身につける機会を見つけたら、やさしくそっと背中を押していただきたく、お願いいたします。ちなみに、私が博士課程の学生の時に作ったロボットが長らくボストンのコンピュータ博物館に展示されていましたが、現在はシリコンバレーのコンピュータ歴史博物館に展示されています。富山県立大学のオフィスに寄ったついでにこの目で見てみたいと思っています。

三つ目に、多様性の理解です。世界には、様々な民族や宗教、価値観があり、対立が争いに発展する例を、私たちは歴史的にも現在のニュースでも見てきました。平和で安定した社会のために多様性を理解した上で、私たちにできることがあるはずです。今後、皆さんは世界中に友達ができますが、排他的になるのではなく、相互理解が進むよう行動してください。

四つ目に、背伸びをして、世界一を目指してください。関連する人がたくさんいるな

かでの世界一になるのは大変ですが、関連する人の少ないニッチな、つまり狭く限定された範囲で十分なので、そこの世界一になってください。場合によっては土俵やルールを自分自身で作って、その土俵の世界一を目指してください。世界一を目指す過程で、自分自身の強みが見つかるはずです。私の例でいうと、世界一寸法が小さく、微小な力が測れるセンサが作れるという強みを持っています。

　結びとなりますが、富山県立大学に入学してよかった、成長が実感できたと、皆さんに思ってもらえるよう、教職員は、皆さんの成長を応援いたします。富山県立大学に入学する皆さん、今日から一緒に前に進んでいきましょう。

令和６年４月４日
　富山県立大学　学長　　下山　勲